

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171300082		
法人名	有限会社 共生の里		
事業所名	グループホーム共生の里 小城		
所在地	佐賀県小城市小城町字廿地212-5 (電話) 0952-73-5127		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年2月20日	評価確定日	平成 21年5月8日

## 【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1万5千~3万 円	その他の経費(月額)	7千5百 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	270 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		830 円	

### (4) 利用者の概要(平成21年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85.8 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひらまつ病院・中多久病院・ウツティデンタルクリニック
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小城の清水の滝や桜で有名な小城公園が近くにあり、自然豊かな場所に民家改修型のグループホーム「共生の里」がある。民家の特徴を残しながらも、現在の入居者に合わせた手すりや、滑り止めなどが設置されており、安全面にも配慮されている。誰もが地域の中で昔から過してきた生活スペースで、家庭的な生活ができる事を目指し人としての尊厳を大切にしたい支援がなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>災害対策については、夜間想定で年2回避難訓練が行われ、緊急時に協力を得られるように地域住民や消防団等にも協力を働きかけられている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>業務の中から職員の意見を出し、施設長、管理者が自己評価をまとめられている。外部評価に関しては、改善点を見出し職員全員で改善に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>6ヶ月に1回、地域包括支援センター、区長、民生委員、地区住民代表、家族会の代表が参加し、ホームの現状の報告、今後の展望、地域での情報交換も行われている。開催日時の検討、行事とあわせて実施するなどの工夫により、実施頻度を、現在の年2回から徐々に増やしていく事が望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情相談窓口が明記しており、面会の際にホームに対する意見等が寄せられた時は、すぐに対応されている。状況報告書を毎月1回家族へ発送されている。また、面会時や状態変化があった時は、その都度報告されているが、家族が安心される為にも、ホームの行事や案内、職員の情報、入居者の写真等でホームでの状況を伝える事が望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>高齢の方が多く、地域での行事に参加することが難しく、積極的に参加できない状況である。しかし、地域との付き合いを大事にし、ホームを中心に地域で啓蒙活動が行われている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作られ、「昔ながらの生活をそのままに趣のあるたたくまのままでその人のその人らしい生活を生き生き生きる」とし、入居者の尊厳を大事にした支援が行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関にも大きく理念が掲示されている。また、施設長、管理者を中心に、日々スタッフに理念、方針を伝達する事で、理念に添った支援が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の老人会や夏祭り等に参加し、地域との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員からは業務の中で意見を聞き、それを施設長と管理者がまとめる事で、自らの改善点を見出し、改善に努められている。	○	施設長、管理者だけではなく、全職員で自己評価する事で、評価の意義の理解や具体的な改善に取り組み、サービスの質の向上が出来る事を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6ヶ月に1回運営推進会議を開催されている。地域包括支援センター、民生委員、地区住民代表、家族の会代表、区長、施設長、施設管理者が出席され、ホームでの状況報告や今後の展望、意見交換が行われ、サービスに活かされている。	○	開催日時の検討、行事とあわせて実施するなどの工夫により、実施頻度を、現在の年2回から徐々に増やしていく事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議、及び必要時に連絡を取り合い情報交換をし、サービスの向上に努められている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状況報告書を毎月1回家族へ発送されている。また、面会時や状態変化があった時は、その都度状況報告が家族に行われている。	○	家族が安心される為にも、ホームの事や職員の情報、入居者の写真等でホームでの状況を伝える事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	報告書の中に家族からの意見や要望を記入する欄を設けたり、面会時の会話の中で、家族の意向を汲み取り、その都度カンファレンスを開き改善に取り組まれている。また、苦情相談窓口を管理者に定め、重要事項説明書にも明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職がある場合は、入居者が混乱しないように顔なじみの職員が寄り添うなど、配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修会は、半年に1回実施され、質の向上に努められている。しかし、外部研修の参加はされていない。	○	医療知識や介護技術の勉強会を定期的実施し、外部研修に可能な範囲で参加し情報を共有することで、サービスの質の向上を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の支援事業所や福祉施設とネットワークを作り、交流を持ちサービスの質の向上やネットワーク作りに取り組まれている。	○	地域でのグループホームとの交流を持ち、定期的な交流会を実施したり、スタッフの相互研修や入居者同士の交流につなげて行く事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の状況に応じて、見学、おためし体験やデイサービス利用の体制が整っている。入居後、慣れられるまでは、職員が寄り添い、家族からの情報をもとにコミュニケーションを図りながら、個別的対応が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や料理等、日々の生活の中でスタッフと一緒にしながら、共に過ごし助け合う関係が作られている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話を大事にし、意向の把握に努められている。意思表示が困難な方は、声かけによる表情やしぐさ、家族からの情報提供をもとに検討し支援されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向は、面会時に確認し定期的及び随時必要な時にカンファレンスを行い、個別的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の見直しが行われ、状態の変化があった時は、その状態に応じて新たな介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院や通院の付き添い等、家族が対応できない時は、柔軟に対応が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望される医療機関での受診を継続できるように支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を確認し、ホームでの役割も理解してもらった上で主治医を交え話し合いを何度も持ち支援されている。	○	終末期の対応指針等を作成する事で、関係者全員が共有できるように期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大事にされ、言葉掛けには特に注意し、対応されている。また、プライバシー保護の為に書類等は事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の選択を尊重し、コミュニケーションを図りながら、入居者のペースに合わせた支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や片付けは、入居者と一緒に行い、食事中はテレビを消して、おしゃべりを楽しみながら食事をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望にいつでも応じられるように、入浴の準備がなされている。拒否がある時は、その方の状態やタイミングをみながら入浴ができるように支援されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	タオルたたみやお茶の準備、洗濯物干し等、職員と一緒に行われている。また、春になったら花植え等、園芸を計画されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや散歩にでかけられるように支援されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外部からはいつでも入れるようにされているが、入居者の離設行為があり、安全面を考慮し常時施錠されている。	○	家族、地域の協力、鍵をかけないケアについて、全員で話し合い検討し、見守り体制の工夫で、できる限り鍵をかけないケアに積極的に取り組まれる事が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回夜間想定で入居者も参加し実施されている。また、地域の消防団との協力が得られるように働きかけが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎食チェックし把握されている。水分摂取は、定時にお茶やゼリーを提供し水分摂取の促しが行われている。栄養については、施設長が調理師なので、アドバイスを受けながら入居者に応じた食事の提供が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、坐り台が設置してあり、安全面に配慮した手すりや足元にも伝電灯が設置してある。また、浴室は洗い場全面にスノコをひいて段差解消をされている。廊下にはファンヒーターを置き寒さ対策にも努められている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、エアコン、加湿器が設置されている。使い慣れた物を持ち込まれ、入居者が安心して過しやすいように工夫している。		